

## 資料Ⅰ

### 議事

- (1) 不登校児童生徒の現状について

# 不登校児童生徒の現状について

## 1 国の不登校の実態について

### (1) 定義

何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくてもできない状況にあるために年間 30 日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者をのぞいたもの

### (2) 実態

文科省の調査によると、全国の不登校児童生徒数は大幅に増加している。令和 4 年度調査では、小中学生合わせて約 30 万人に迫っており、過去最多となっている。また、不登校児童生徒のうち、90 日以上欠席している児童生徒数は約 16 万 5 千人にのぼっている。

文科省は、不登校の原因を以下の 3 つに分類しており、小中学校ともに「本人に係る状況」の「無気力、不安」が約半数を占める結果となった。

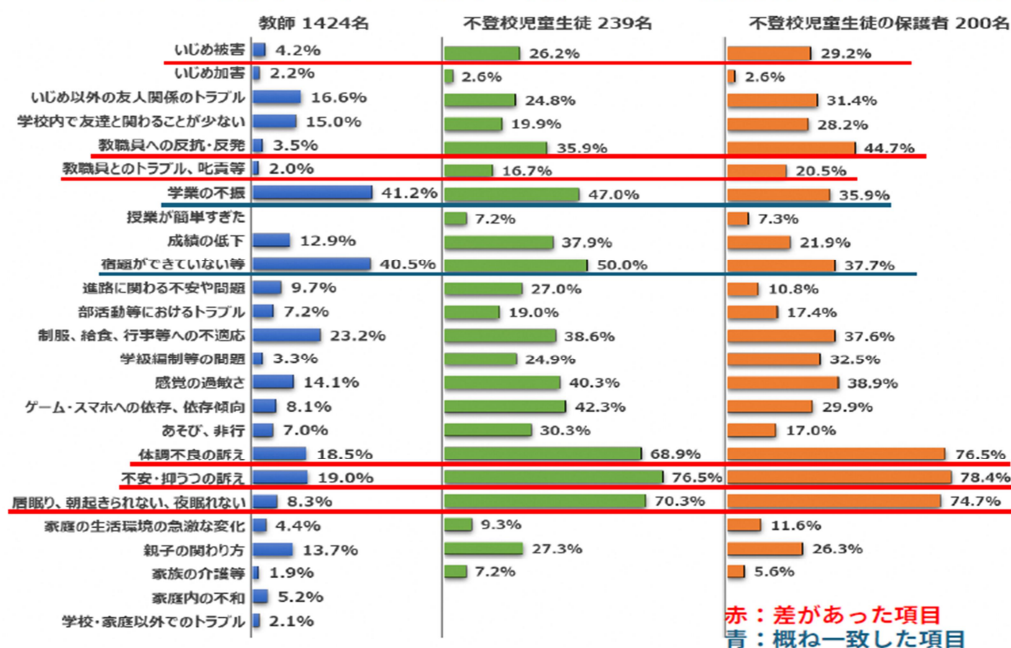
- ・学校に係る状況（学校が原因の不登校）
- ・家庭に係る状況（家庭環境や家庭で起きた問題が原因の不登校）
- ・本人に係る状況（学校・家庭いずれも関係のない本人の問題が原因の不登校）

### (3) 不登校の背景

文科省調査において不登校の主たる要因が「無気力、不安」であると報告された児童生徒の詳細を把握すること等を目的として、文科省の委託事業調査が実施され、不登校の要因分析に関する結果が公表された。（参考資料 1－1）

文科省委託事業の調査において、令和 4 年度に不登校として報告された児童生徒について不登校の要因を複数回答で聞いたところ、「いじめ被害」「教職員への反抗・反発」「教職員とのトラブル、叱責等」や「体調不良」「不安・抑うつ」といった心身の不調等について、教師と児童生徒・保護者の回答割合に大きな違いが見られた。一方、「学業不振」「宿題ができていない」等は三者の回答割合が近く、約 30～50％程度を占めている。

### きっかけ要因に関する教師・児童生徒・保護者の回答の比較

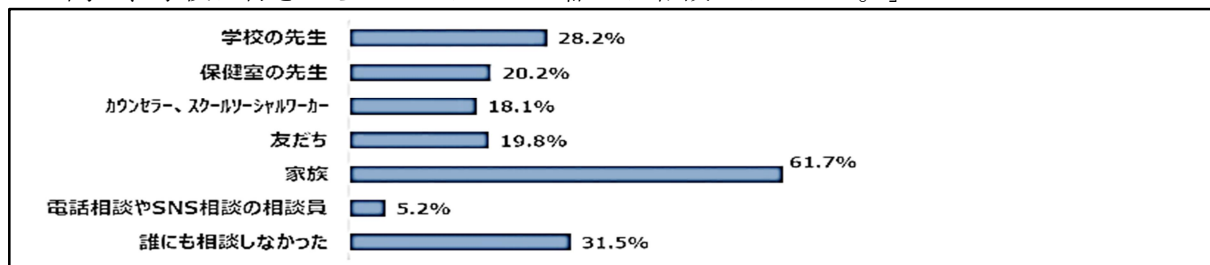


「文部科学省委託事業不登校の要因分析に関する調査研究結果の概要」より

この調査では、不登校の児童生徒の相談相手、児童生徒及び保護者のニーズ等についての調査も行われており、以下のような結果が示されている。

#### 【相談に関する質問】（児童生徒対象）

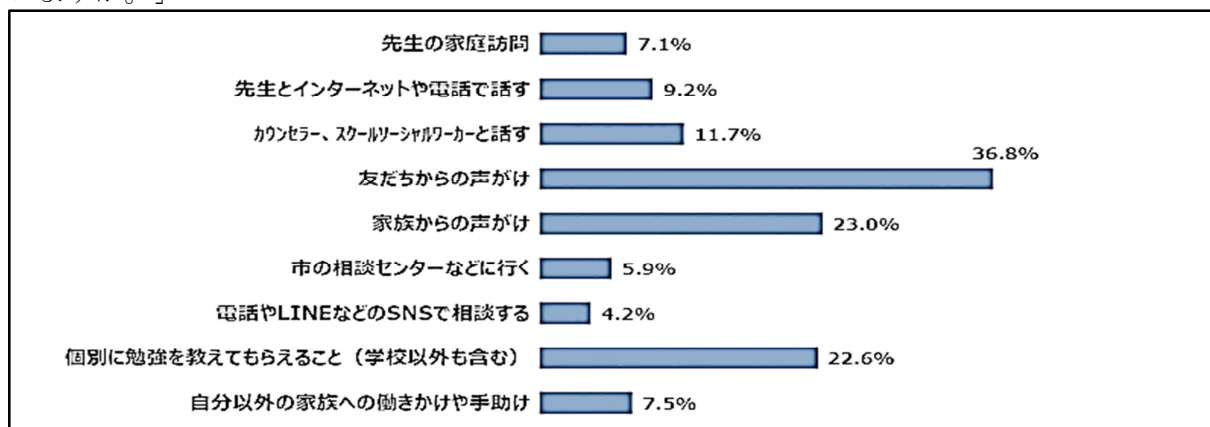
「あなたが一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから、実際に休み始めるまでの間で、学校に行きづらいことについて誰かに相談しましたか。」



- ・最も相談するのは家族で6割以上。学校の先生・保健室の先生の2割以上を占めることから、最初の相談に対し、どのように寄り添うか、初動対応が極めて重要である。
- ・身近にいる教員に相談する児童生徒以上に「誰にも相談しなかった」児童生徒が3割を占めることから、国や県の相談窓口の周知や、一人一台端末等を活用し、心や体調の変化を把握し、適切なアセスメントやチーム支援に活かすといった取組の検討も必要である。

#### 【学校に戻るために有効なことに関する質問】（児童生徒対象）

「前の学年で、学校を休んでいるとき、どのようなことがあれば学校に戻りやすかったと思いますか。」



- ・「友だちからの声かけ」が35%以上と最も多く、「家族からの声かけ」「個別に勉強を教えてもらえること」と続く。
- ・家族、友だちをはじめ、先生、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった「他者との関わりが持てること」「個別に質問しやすく、勉強を教えてもらえる場所の確保」も重要な支援だと分かる。

#### （4）対策

文科省は、不登校児童生徒の急増、学校内外で教育を受けられていない小中学生の増加を受け、「不登校により学びにアクセスできない子供たちをゼロにすること」を目指し、令和5年3月31日「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」を公表した。併せて、各自治体や教育委員会、学校設置者に対し通知を発出し、プランを踏まえた速やかな不登校対策の推進を求めている。（参考資料1-2）

## 2 函南町の実態について

### (1) 不登校児童生徒数・校内教育支援センター（ステップルーム）の現状

【不登校児童生徒数】（令和4年度～令和5年度の同時期比較による）

- ・不登校児童生徒数では、中学校で現状維持、小学校で増加傾向がみられた。
- ・新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが変化する中で、特に小学校において「無気力」「不安」の訴えが増加した。
- ・小学校の長期不登校児童については、中学校進学後も不登校を継続する可能性が高い。

【校内教育支援センター（ステップルーム）】

- ・令和5年度後期（10月～3月）における利用生徒数は以下の通りとなっており、利用生徒の居場所として十分機能した。

【令和5年度 後期：1日の平均利用生徒数】

単位：人

|     | 10月 | 11月 | 12月 | 1月  | 2月  | 3月  | 平均  |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 函南中 | 4.7 | 4.3 | 5.3 | 5.4 | 5.1 | 6.2 | 5.2 |
| 東中  | 5.8 | 5.3 | 6.3 | 5.6 | 5.9 | 8   | 6.2 |

- ・利用状況やアンケート結果から、登校はできているが学級に入りにくく困っている生徒や、登校の機会を持ちたい気持ちがある生徒にとって有効であった。
- ・教員間でステップルームの目的や支援の考え方、利用生徒の状況や心情理解に共通認識を持っていない部分がある。不登校や児童生徒理解研修等により、教員の意識改革をしていくことも必要である。

### (2) 函南町の取り組みと今後の方向性

#### ①中学校の校内教育支援センター（ステップルーム）の整備拡充

函南町では、令和5年度から両中学校に校内教育支援センター（ステップルーム）を整備し、運用している。自分のクラスに入りづらい生徒が、落ち着いた空間の中で自分に合ったペースで学習・生活できる環境を学校内に確保し、必要に応じて、友達や教員などの他者とも相談・交流することもできる。また、学習面については、今年度より一人一台端末を活用し、授業の板書や一部授業の動画配信を視聴できる体制整備を行っている。また、両中学校にステップルーム専属の学習支援員を配置することで、生徒がいつでも相談でき、安心して個別の学習支援を受けられる環境を整えている。

一方、学習支援員の勤務時間の関係で終日にわたる支援はできず、中学校では、専属の学習支援員の勤務開始を少し遅い時間に設定したり、管理職やその時間に授業が入っていない教員等が対応したりと、ステップルーム運用に努めている。勤務時間中の休憩時間確保も十分にできていない現状もあり、中学校におけるステップルーム専属の学習支援員の勤務時間拡充を求めたい。

## ②小学校への校内教育支援センターの設置

中学校でのステップルームの取組や成果を、教育支援センターを中心に、校長会や不登校担当者会等で積極的に発信し、居場所づくりの取り組みについて、町内小中学校へ情報共有を図っている。

不登校においては、「不登校未然防止」、予兆がある児童の「早期発見・早期対応」が非常に重要である。特に小学校において発達段階的に、自分の細かな心情の変化や感情の表出が困難な場合が多い。函南町においても、本人・保護者もこれといったきっかけがつかめていないが、「無気力」「不安」といった訴えにより休み始めてしまう児童もいる。そういった悩みや不安を抱える児童に対して、適切な距離感で関わり、子どもの困り感に寄り添い、個に応じた柔軟な支援を行っていく必要がある。

中学校におけるステップルームの利用生徒・保護者からは肯定的な意見が多く、これら取組を参考に小学校でも校内教育支援センターの実践を展開していきたい。まずは、田方地区最大児童数を抱える函南町立東小学校への校内教育支援センターの設置を目指す。

## ③小さな SOS を把握する「心の健康観察」の試験実施や導入検討

文科省委託事業の不登校の要因分析調査によると、児童生徒回答と教師回答に大きな差異がみられた。また、約3人に1人が「誰にも相談しなかった」ということを鑑みると、教師が児童生徒に直接声をかけたとしても、心身の不調を正確に捉えることは難しいことが分かる。文科省の「COCOLO プラン」では、一人一台端末を利用し健康観察を行う等、心や体調の変化を早期発見する取組を推進している。函南町においては、現在小学校1校で一人一台端末を用いた「心の健康観察」を実施している状況だが、メンタルヘルスの悪化や児童生徒が発する小さな SOS の早期発見につなげる「心の健康観察」の試験実施や導入検討を進めていきたい。

児童生徒は複雑で急激に変化する現代を生き抜いている。そのような不安定な環境の中、今日まで登校できていた児童生徒がいつ登校できなくなっても不思議ではない。不登校支援について、函南町では「不登校児童生徒への関わり率 100%」を目標に掲げ、継続して対応している。現在不登校状態の児童生徒の自立に向けた支援を継続して行いながら、「不登校未然防止」の視点も取り入れ、目の前の児童生徒が「登校し続けられる魅力的な学校づくり」「安心できる居場所づくり」の重要性を再認識し、今後も不登校対策を行っていきたい。

# 文部科学省委託事業不登校の要因分析に関する調査研究 結果の概要

参考資料 1－1

## I 調査の目的

- (1) 令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（以下、問題行動等調査）において不登校と計上された児童生徒について、教師、児童生徒本人、保護者の回答を比較すること、および不登校でない児童生徒に対する教師、児童生徒本人の回答を比較することで、**不登校の関連要因を明らかにする。**

(2) 令和4年度問題行動等調査において、不登校の主たる要因が**「無気力・不安」であると報告された児童生徒（以下、「無気力・不安」群）の詳細を把握し実態をつかむ。**

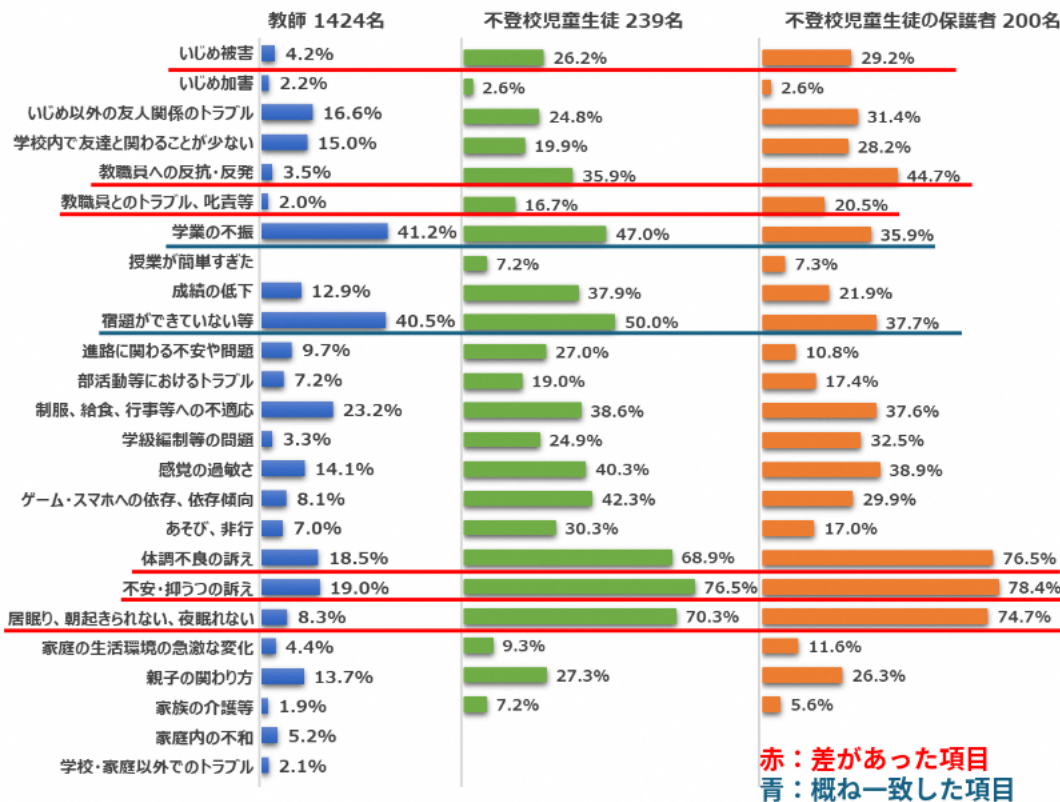
(3) 令和4年度問題行動等調査において、学校内外の専門機関等で**相談・指導等を受けていないと報告された児童生徒の実態等を調査し、把握する。**

## II 調査の方法

|         |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 協力教育委員会 | 大阪府吹田市、広島県府中市、宮崎県延岡市、山梨県                                                                                                                                                                                                                                   |
| 調査対象者   | 令和4年度に小学3年生から高校1年生（中学3年生を除く）であった児童生徒（19,005名）とその保護者（12,140名）、および令和4年度当時の担任教師等（児童生徒24,943名分）                                                                                                                                                                |
| 主な調査内容  | 令和4年度の登校状況<br><b>きっかけ要因（または辛かったこと）</b> ：いじめ、いじめを除く友人関係の問題、学業不振、ゲーム、心身の不調、生活リズムの乱れなど、直接的な不登校のきっかけになりうるもの。<br><b>背景要因</b> ：特別な教育の支援ニーズ、障害、外国籍、家庭背景等（教師、保護者を対象に調査）。<br><b>保護因子</b> ：授業・行事等への積極的な参加、勉強が得意、教職員との良好な関係、家庭内での良好な関係等、得意なこと、うまくいっていること。<br>令和5年度の状況 |

# (1) 不登校の関連要因について

## きっかけ要因に関する教師・児童生徒・保護者の回答の比較



教師が令和4年度不登校として報告し、かつ児童生徒も年間欠席30日以上と回答した239名、および保護者も年間欠席30日以上と回答した200名の結果を記載。  
**「学業の不振」、「宿題の提出」**については、三者の回答割合が比較的近い値であった。一方、**「いじめ被害」、「教職員への反抗・反発」、「教職員からの叱責」**等については、教師と児童生徒・保護者の回答割合に違いがみられた。また、**「体調不良」、「不安・抑うつ」、「居眠り、朝起きられない、夜眠れない」**といった心身不調・生活リズム不調については、児童生徒や保護者は約7～8割が回答しているのに対し、教師の回答割合は2割弱と低かった。

## 教師回答による不登校児童生徒と不登校でない児童生徒の違い

| 質問項目                 | 不登校でない児童生徒 | R4不登校の児童生徒 | 違い(オッズ比) |
|----------------------|------------|------------|----------|
| いじめ被害                | 3.9%       | 4.2%       | 1.09     |
| いじめ加害                | 3.8%       | 2.2%       | 0.56     |
| いじめ以外の友人関係のトラブル      | 15.9%      | 16.6%      | 1.05     |
| 学校内で友達と関わるのが少ない      | 2.9%       | 15.0%      | 5.97*    |
| 教職員への反抗・反発           | 2.6%       | 3.5%       | 1.35*    |
| 教職員とのトラブル、叱責等        | 1.7%       | 2.0%       | 1.21     |
| 学業の不振                | 11.7%      | 41.2%      | 5.26*    |
| 成績の低下                | 1.5%       | 12.9%      | 9.93*    |
| 宿題ができていない等           | 11.1%      | 40.5%      | 5.44*    |
| 進路に関わる不安や問題          | 1.7%       | 9.7%       | 6.20*    |
| 部活動等におけるトラブル         | 2.6%       | 7.2%       | 2.88*    |
| 制服、給食、行事等への不適応       | 1.5%       | 23.2%      | 20.40*   |
| 入学、転編入学、進級時の不適応      | 0.5%       | 3.3%       | 6.44*    |
| ゲーム・スマホへの依存、依存傾向     | 0.8%       | 8.1%       | 10.95*   |
| あそび、非行               | 1.5%       | 7.0%       | 5.06*    |
| 体調不良の訴え              | 4.5%       | 18.5%      | 4.80*    |
| 不安・抑うつ               | 2.3%       | 19.0%      | 9.75*    |
| 学校での居眠り等             | 4.8%       | 8.3%       | 1.80*    |
| 家庭の生活環境の急激な変化        | 1.7%       | 4.4%       | 2.74*    |
| 親子の関わり方              | 2.3%       | 13.7%      | 6.65*    |
| 家庭内の不和               | 1.0%       | 5.2%       | 5.38*    |
| 学校・家庭以外でのトラブル        | 0.8%       | 2.1%       | 2.67*    |
| 特別な教育的支援のニーズ         | 5.8%       | 20.8%      | 4.27*    |
| 発達障がい診断・疑い           | 5.3%       | 20.6%      | 4.64*    |
| 身体的疾患・障がい、睡眠障害の診断・疑い | 1.8%       | 10.0%      | 5.98*    |
| 心理・精神的な問題の診断・疑い      | 1.5%       | 12.3%      | 9.12*    |
| 感覚過敏・鈍麻              | 1.8%       | 14.1%      | 9.00*    |
| 外国籍、重国籍、日本語以外        | 1.4%       | 1.1%       | 0.74     |
| 要対協、要保護、準要保護         | 0.5%       | 2.0%       | 4.31*    |
| 性自認、性的指向、性表現の違和感     | 4.7%       | 11.7%      | 2.67*    |
| 家族の介護・介助             | 0.7%       | 1.9%       | 2.67*    |
| ひとり親・共働き家庭           | 3.8%       | 18.2%      | 5.57*    |
| きょうだいの不登校            | 1.8%       | 27.7%      | 20.37*   |

## 児童生徒本人回答による不登校児童生徒と不登校でない児童生徒の違い

| 質問項目                 | 不登校でない児童生徒 | R4不登校の児童生徒 | 違い(オッズ比) |
|----------------------|------------|------------|----------|
| いじめ被害                | 15.0%      | 26.2%      | 2.00*    |
| いじめ加害                | 8.7%       | 2.6%       | 0.28*    |
| いじめ以外の友人関係のトラブル      | 16.6%      | 24.8%      | 1.66*    |
| 仲の良い友だちがいない          | 7.4%       | 19.9%      | 3.13*    |
| 先生と合わない              | 14.3%      | 35.9%      | 3.35*    |
| 先生から厳しく怒られた、体罰があった   | 7.5%       | 16.7%      | 2.45*    |
| 授業が分からない             | 35.4%      | 47.0%      | 1.62*    |
| 授業が簡単すぎた             | 11.3%      | 7.2%       | 0.61     |
| 成績が下がった              | 41.6%      | 37.9%      | 0.86     |
| 宿題ができない              | 24.5%      | 50.0%      | 3.08*    |
| 将来の進路の悩み             | 36.1%      | 27.0%      | 0.66*    |
| 部活動の問題               | 19.4%      | 19.0%      | 0.97     |
| 学校の決まりのこと(制服・給食・行事等) | 13.8%      | 38.6%      | 3.94*    |
| 入学、進級、転校など           | 7.0%       | 24.9%      | 4.40*    |
| 声や音がうるさい、いやなおい       | 23.7%      | 40.3%      | 2.17*    |
| インターネット、ゲームの影響       | 22.9%      | 42.3%      | 2.47*    |
| 学校とは違ったこと(遊び)をしたい    | 22.0%      | 30.3%      | 1.54*    |
| からだの不調               | 34.0%      | 68.9%      | 4.29*    |
| 気持ちの落ち込み、いろいろ        | 49.2%      | 76.5%      | 3.35*    |
| 朝起きられない、夜眠れない        | 36.4%      | 70.3%      | 4.13*    |
| 家で生活がかわった            | 3.8%       | 9.3%       | 2.57*    |
| 親のこと(親と仲が悪いなど)       | 15.9%      | 27.3%      | 1.99*    |
| 家族の世話や家事             | 7.7%       | 7.2%       | 0.94     |

\*統計的に有意(p<.05)

青：教師・児童生徒ともに不登校との関連がみられた項目

赤：教師のみで関連がみられた項目

緑：児童生徒のみで関連がみられた項目

※どちらか一方でしか該当していないものは除く

## (2) 無気力・不安群について

教師対象調査において、令和4年度問題行動等調査で不登校の主たる要因について回答のあった1,357名の回答のうち、その要因が「無気力・不安」であったものは750名（55.3%）であった。「無気力・不安」群とそれ以外の群について、教師、児童生徒、保護者の回答を比較した。

| きっかけ要因               | 教師回答         |           |          |
|----------------------|--------------|-----------|----------|
|                      | 「無気力・不安」以外の群 | 「無気力・不安」群 | 違い（オッズ比） |
| いじめ被害                | 6.1%         | 2.5%      | 0.40*    |
| いじめ加害                | 3.5%         | 1.3%      | 0.38*    |
| いじめ以外の友人関係のトラブル      | 21.9%        | 12.3%     | 0.50*    |
| 学校内で友達と関わることが少ない     | 16.0%        | 14.7%     | 0.90     |
| 教職員への反抗・反発           | 4.6%         | 2.8%      | 0.60     |
| 教職員とのトラブル、叱責等        | 2.6%         | 1.6%      | 0.60     |
| 学業の不振                | 44.2%        | 39.6%     | 0.83     |
| 成績の低下                | 13.8%        | 12.1%     | 0.86     |
| 宿題ができていない等           | 43.0%        | 39.1%     | 0.85     |
| 進路に関わる不安や問題          | 8.6%         | 10.8%     | 1.29     |
| 部活動等におけるトラブル         | 7.9%         | 6.7%      | 0.83     |
| 制服、給食、学校行事等への不応      | 24.9%        | 23.1%     | 0.91     |
| 学級編制等の問題             | 3.5%         | 3.2%      | 0.92     |
| ゲーム・スマホの利用への依存、依存傾向  | 9.2%         | 6.9%      | 0.73     |
| あそび、非行               | 9.9%         | 4.8%      | 0.46*    |
| 体調不良の訴え              | 18.0%        | 18.7%     | 1.05     |
| 不安・抑うつ訴え             | 19.3%        | 18.4%     | 0.94     |
| 学校での居眠り等             | 9.1%         | 7.1%      | 0.76     |
| 家庭の生活環境の急激な変化        | 6.8%         | 2.5%      | 0.36*    |
| 親子の関わり方              | 17.5%        | 10.7%     | 0.56*    |
| 家庭内の不和               | 6.8%         | 3.7%      | 0.54*    |
| 学校・家庭以外でのトラブル        | 3.0%         | 1.3%      | 0.44*    |
| 背景要因                 |              |           |          |
| 特別支援教育のニーズ           | 20.3%        | 22.4%     | 1.14     |
| 発達障がい診断・疑い           | 20.4%        | 21.3%     | 1.06     |
| 身体的疾患・障がい、睡眠障害の診断・疑い | 10.5%        | 9.9%      | 0.93     |
| 心理・精神的な問題の診断・疑い      | 12.7%        | 11.7%     | 0.91     |
| 感覚の過敏さ               | 10.5%        | 16.9%     | 1.73*    |
| 外国籍、重国籍、日本語以外の言語     | 1.5%         | 0.7%      | 0.45     |
| 性自認、性的指向、性表現の違和感     | 1.8%         | 2.0%      | 1.11     |
| 要対協、要保護、準要保護の対象      | 14.2%        | 10.4%     | 0.70*    |
| 家族の介護等               | 3.0%         | 1.2%      | 0.40*    |
| ひとり親家庭、共働き家庭         | 19.3%        | 17.5%     | 0.89     |
| きょうだいの不登校            | 28.0%        | 28.1%     | 1.01     |

\*統計的に有意（p<.05）

| きっかけ要因               | 児童生徒回答       |           |          | 保護者回答        |           |          |
|----------------------|--------------|-----------|----------|--------------|-----------|----------|
|                      | 「無気力・不安」以外の群 | 「無気力・不安」群 | 違い（オッズ比） | 「無気力・不安」以外の群 | 「無気力・不安」群 | 違い（オッズ比） |
| いじめ被害                | 29.1%        | 26.3%     | 0.92     | 30.1%        | 29.1%     | 0.94     |
| いじめ加害                | 3.3%         | 2.2%      | 0.69     | 2.7%         | 2.6%      | 0.93     |
| いじめ以外の友人関係のトラブル      | 25.6%        | 25.6%     | 0.95     | 28.8%        | 33.6%     | 1.29     |
| 仲の良い友だちがいない          | 19.8%        | 21.0%     | 1.03     | 30.1%        | 26.5%     | 0.84     |
| 先生と合わなかった            | 41.1%        | 30.7%     | 0.74     | 40.5%        | 47.0%     | 1.32     |
| 先生から厳しく怒られた、体罰があった   | 18.7%        | 14.7%     | 0.97     | 21.9%        | 19.7%     | 0.87     |
| 授業が分からない             | 52.8%        | 44.1%     | 0.97     | 31.1%        | 39.7%     | 1.44     |
| 授業が簡単すぎた             | 5.5%         | 8.8%      | 0.89     | 4.1%         | 9.7%      | 2.53     |
| 成績が下がった              | 39.6%        | 38.0%     | 1.43     | 18.9%        | 24.8%     | 1.41     |
| 宿題ができない              | 51.7%        | 50.0%     | 0.89     | 32.9%        | 41.6%     | 1.45     |
| 将来の進路の悩み             | 25.8%        | 28.5%     | 0.96     | 10.8%        | 11.3%     | 1.05     |
| 部活動の問題               | 22.0%        | 17.9%     | 0.98     | 18.9%        | 17.2%     | 0.89     |
| 学校の決まりのこと（制服、給食、行事等） | 40.5%        | 39.4%     | 0.62     | 24.7%        | 46.6%     | 2.62*    |
| 入学、進級、転校など           | 24.4%        | 26.5%     | 1.10     | 29.3%        | 35.9%     | 1.33     |
| 声や音がうるさい、いやなおい       | 37.0%        | 43.1%     | 1.18     | 33.8%        | 43.0%     | 1.46     |
| インターネット、ゲームなどの影響     | 42.2%        | 43.8%     | 1.10     | 25.7%        | 33.0%     | 1.41     |
| 学校とは違ったこと（遊び）をしたい    | 29.0%        | 32.6%     | 1.27     | 13.7%        | 19.0%     | 1.46     |
| からだの不調               | 67.7%        | 69.6%     | 1.07     | 72.4%        | 79.7%     | 1.51     |
| 気持ちの落ち込み、いろいろ        | 76.3%        | 76.1%     | 1.02     | 75.0%        | 80.3%     | 1.38     |
| 朝起きられない、夜眠れない        | 74.2%        | 66.9%     | 0.83     | 73.3%        | 75.2%     | 1.12     |
| 家での生活がかわった           | 10.9%        | 8.0%      | 0.82     | 15.8%        | 8.6%      | 0.49     |
| 親のこと（親と仲が悪いなど）       | 25.8%        | 29.1%     | 1.08     | 16.2%        | 33.9%     | 2.62*    |
| 家族の世話や家事             | 9.7%         | 5.9%      | 0.63     | 4.1%         | 6.9%      | 1.74     |

\*統計的に有意（p<.05）

赤：「無気力・不安」群に見られた特徴  
青：「無気力・不安」群以外に見られた特徴

教師回答では、「無気力・不安」群は、「**感覚の過敏さ**」以外に統計的に優位に割合の高い項目は無く、「無気力・不安」以外の群で「いじめ被害」、「いじめ加害」、「いじめ以外の友人関係のトラブル」、「あそび、非行」、「家庭の生活環境の急激な変化」、「親子の関わり方」、「家庭内の不和」、「学校・家庭以外でのトラブル」、「要対協、要保護、準要保護の対象」、「家族の介護等」の割合が統計的に有意に高いことから、象徴的なきっかけ要因がない場合に「無気力・不安」を回答されやすい可能性が示唆された。また「不安・抑うつ訴え」に該当するものは、「無気力・不安」以外の群では19.3%、「無気力・不安」群では18.4%と、後者の方がむしろ低かった。このことは、抑うつ・不安の訴えがあることによって、主たる要因を「無気力・不安」と回答しているとは限らないことを示唆する。

# (3) 相談・指導等を受けていないと報告された不登校の児童生徒の状況

令和4年度問題行動等調査における不登校児童生徒1,424名のうち、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けたと報告された児童生徒887名（62.4%）と、相談・指導等を受けていないと報告された児童生徒534名（37.6%）について違いを検討した（無回答3名）。

## 【教師の回答】

| きっかけ要因           | 相談・指導を受けた児童生徒 | 相談・指導を受けていない児童生徒 | 違い（オッズ比） |
|------------------|---------------|------------------|----------|
| いじめ被害            | 4.4%          | 3.9%             | 0.89     |
| いじめ加害            | 1.6%          | 3.2%             | 2.05     |
| 友人関係のトラブル        | 16.2%         | 17.2%            | 1.07     |
| 友達と関わる事が少ない      | 14.8%         | 15.4%            | 1.05     |
| 教職員への反抗・反発       | 2.9%          | 4.5%             | 1.56     |
| 教職員とのトラブル、叱責等    | 1.6%          | 2.8%             | 1.80     |
| 学業の不振            | 38.0%         | 46.3%            | 1.40*    |
| 成績の低下            | 11.6%         | 15.0%            | 1.34     |
| 宿題ができていない等       | 35.7%         | 48.5%            | 1.69*    |
| 進路に関わる不安や問題      | 11.0%         | 7.3%             | 0.63     |
| 部活動等におけるトラブル     | 6.5%          | 8.4%             | 1.32     |
| 制服、給食、行事等への不適応   | 23.0%         | 23.8%            | 1.04     |
| 入学、転編入学、進級時の不適応  | 3.3%          | 3.4%             | 1.03     |
| ゲーム・スマホ依存、依存傾向   | 8.7%          | 7.3%             | 0.83     |
| あそび、非行           | 6.5%          | 7.7%             | 1.19     |
| 体調不良の訴え          | 16.9%         | 21.2%            | 1.32     |
| 不安・抑うつ等の訴え       | 20.4%         | 16.7%            | 0.78     |
| 学校での居眠り等         | 7.2%          | 10.1%            | 1.45     |
| 家庭の生活環境の急激な変化    | 4.1%          | 5.1%             | 1.26     |
| 親子の関わり方          | 13.6%         | 13.9%            | 1.02     |
| 家庭内の不和           | 4.8%          | 5.8%             | 1.21     |
| 学校・家庭以外でのトラブル    | 2.1%          | 2.1%             | 0.96     |
| 背景要因             |               |                  |          |
| 特別支援教育のニーズ       | 23.9%         | 15.7%            | 0.59*    |
| 発達障がい診断・疑い       | 25.6%         | 12.4%            | 0.41*    |
| 身体的疾患、睡眠障害の診断・疑い | 11.7%         | 7.1%             | 0.58*    |
| 心理・精神的問題の診断・疑い   | 14.4%         | 8.8%             | 0.57*    |
| 感覚の過敏さ           | 18.0%         | 7.7%             | 0.38*    |
| 外国籍、重国籍、日本語以外の言語 | 1.0%          | 1.1%             | 1.11     |
| 性自認、性的指向、性表現の違和感 | 2.0%          | 1.9%             | 0.92     |
| 要対協、要保護等の対象      | 9.5%          | 15.5%            | 1.76*    |
| 家族の介護等           | 1.9%          | 1.9%             | 0.98     |
| ひとり親家庭、共働き家庭     | 16.0%         | 21.9%            | 1.47*    |
| きょうだいの不登校        | 27.8%         | 27.5%            | 0.98     |

\*統計的に有意（p<.05）

## 【教師回答による不登校関連要因の違い】

### ・相談・支援を受けていない児童生徒の割合が高い

「学業の不振」（オッズ比：1.40）、「宿題ができていない等」（オッズ比：1.69）、「要対協、要保護等の対象」（オッズ比：1.76）、ひとり親家庭、共働き家庭（オッズ比：1.47）

### ・相談・支援を受けた児童生徒の割合が高い

「特別支援教育のニーズ」（オッズ比：0.59）、「発達障がいの診断・疑い」（オッズ比：0.41）、「身体的疾患、睡眠障害の診断・疑い」（オッズ比：0.58）、「心理・精神的問題の診断・疑い」（オッズ比：0.57）、「感覚の過敏さ」（オッズ比：0.38）

## 【児童生徒回答による不登校関連要因の違い】※表無し

### ・相談・支援を受けていない児童生徒の割合が高い

「授業が分からない」（オッズ比：1.85）、「宿題ができていない」（オッズ比：1.72）

令和4年度問題行動等調査において相談・指導等を受けていないと報告された児童生徒は、受けたと報告された児童生徒と比較して、「学業不振」や「宿題」の問題が多くみられた。これらは教師回答、児童生徒回答で一致した結果であった。

一方で、相談・指導等を受けていない児童生徒では、「発達障害の診断・疑い」「感覚の過敏さ」等の背景要因をもつ割合が少なく、このような要因をもつことで相談・指導等につながりやすい（あるいは既につながっていた）可能性がある。しかし、「要対協・要保護」、「ひとり親・共働き」といった家庭的な背景要因をもつ割合が多く、このような場合に相談・指導が届きにくい可能性がある。

赤：相談・指導等を受けていない児童生徒の割合が高い

青：相談・指導等を受けた児童生徒の割合が高い

# 不登校の児童生徒に対する学校の対応と保護者の評価

## 【教師への質問】

不登校児童生徒に対してどのような対応があったか。

| 学校を休んでいる（休みがちな）ときの対応                              |       |
|---------------------------------------------------|-------|
| 教職員による本人、家族への連絡：ほぼ毎日                              | 30.7% |
| 週に何度か                                             | 31.8% |
| 週に一度程度                                            | 23.2% |
| 月に何度か                                             | 11.9% |
| ほとんどない                                            | 2.4%  |
| 教職員による家庭訪問：ほぼ毎日                                   | 2.9%  |
| 週に何度か                                             | 6.3%  |
| 週に一度程度                                            | 22.2% |
| 月に何度か                                             | 27.7% |
| ほとんどない                                            | 41.0% |
| スクールカウンセラー等の専門スタッフとの面談                            | 38.1% |
| 学校内に別室登校できる環境の整備等                                 | 73.4% |
| 教育支援センター（適応指導教室）など学校外の教育機関の紹介                     | 37.4% |
| 学校によるオンラインを活用した学習支援（オンライン教材の提供やオンラインによる同時双方向授業など） | 30.8% |
| 学校による上記以外の学習支援（プリントの配布、紙媒体の教材の提供等）                | 71.7% |
| 就学援助等の経済的支援の利用の紹介                                 | 13.2% |

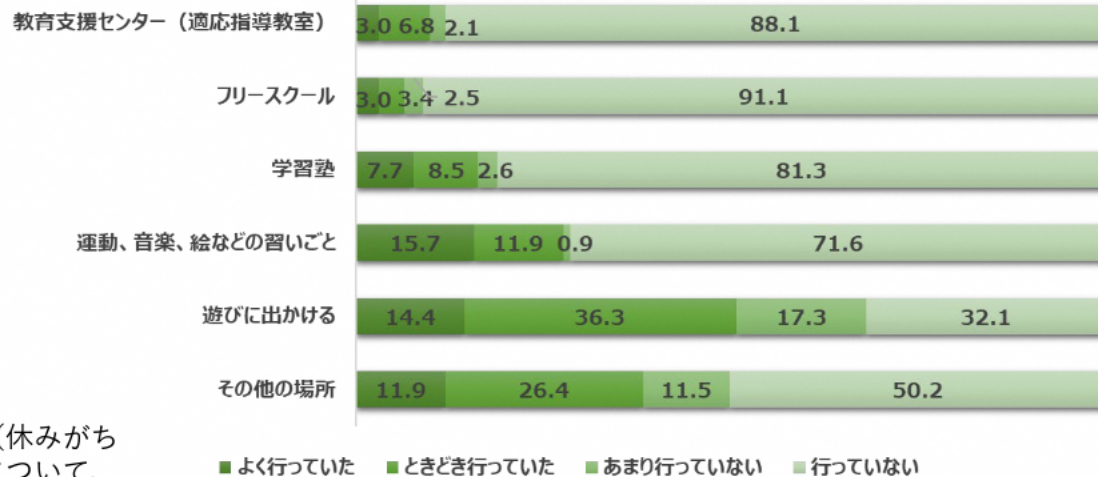
青：対応割合の高いもの 赤：対応割合の低いもの

「学校内に別室登校できる環境の整備等」（73.4%）や「学校による上記以外の学習支援（プリントの配布、紙媒体の教材の提供等）」（71.7%）は多くの学校で提供されているが、「教育支援センター（適応指導教室）など学校外の教育機関の紹介」（37.4%）や「学校によるオンラインを活用した学習支援（オンライン教材の提供やオンラインによる同時双方向授業など）」（30.8%）が行われている割合は低い。

## 【児童生徒への質問】

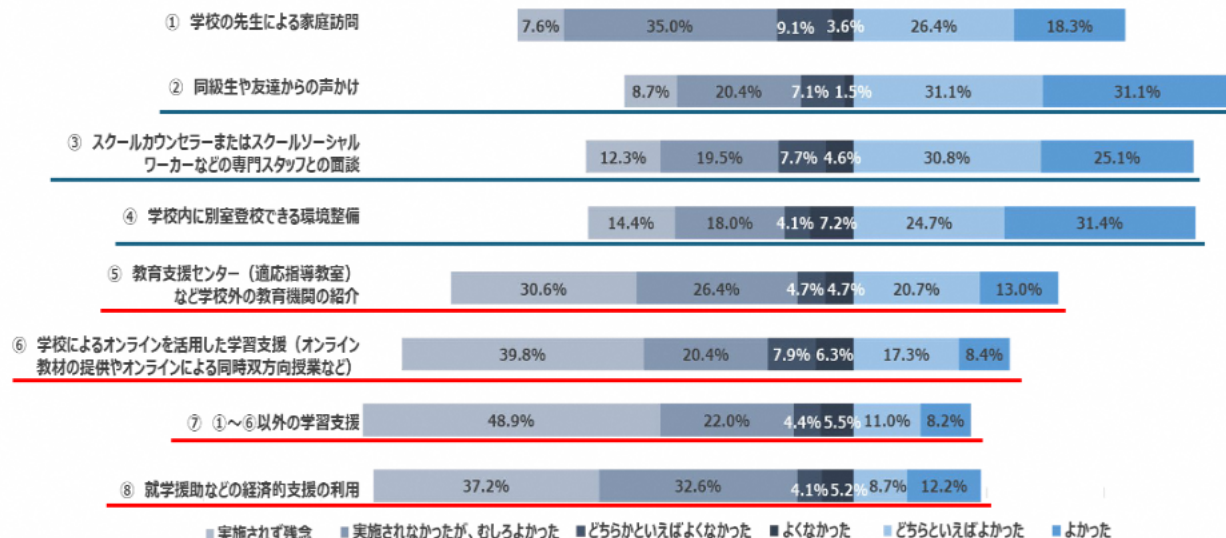
休んでいる間、学校以外の場所に行っていましたか。

「教育支援センター（適応指導教室）」やフリースクールに行っていた割合は低かった。選択肢にある場所すべてに「行っていない」と回答した児童生徒は16.3%であった。



## 【保護者への質問】

お子さんが学校を休んでいる時（休みがちになっている時）の学校の対応について、どのように評価していますか。



青：肯定的な評価の割合の高いもの 赤：実施されず残念の回答割合の高いもの

保護者からは、「同級生や友達からの声かけ」（62.2%）や「スクールカウンセラーまたはスクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフとの面談」（55.9%）、「学校内に別室登校できる環境整備」（56.1%）等について肯定的な回答が多い一方、「教育支援センター（適応指導教室）など学校外の教育機関の紹介」（30.6%）や「学校によるオンラインを活用した学習支援（オンライン教材の提供やオンラインによる同時双方向授業など）」（39.8%）等について実施されず残念という回答が多かった。

# 考察：不登校支援の方向性への提言

## （１）不登校の関連要因について

【いじめ被害及び友達とのトラブルの予防】 児童生徒回答では、不登校の児童生徒の26.2%がいじめ被害を訴えている（不登校でない児童生徒は15.0%）。また、不登校の児童生徒で「いじめ以外の友人関係のトラブル」を訴えている者は24.8%（不登校でない児童生徒は16.6%）であり、友人関係の問題は不登校のリスクを高めると考えられる。いじめや友達関係トラブルが起きにくい集団作り、対人スキルを学ぶ機会の提供が重要であり、集団に馴染めず、孤立している児童生徒に対して早期に支援することが不登校の予防として必要である。

【教師の行動、学校風土の改善】 児童生徒回答において、不登校の児童生徒は「先生から厳しく怒られた・体罰」が16.7%（不登校でない児童生徒は7.5%）、「先生と合わなかった」が35.9%（不登校でない児童生徒は14.3%）であり、教師の態度や指導方法が不登校の要因になっている可能性がある。また、児童生徒回答・教師回答ともに、「学校のきまり（制服・給食・行事等への不適応）」が不登校と関連している（オッズ比：児童生徒3.94、教師20.40）。こうした学校のルール設定、活動の設定、教師の態度や指導方法は、学校風土を形作る要素である。学校風土の向上は不登校の予防につながるものであり、COCOLOプランで述べられている学校風土の見える化、校則等の見直しの推進、快適で温かみのある学校としての環境整備などが必要である。

【授業改善、学習支援の充実】 「学業の不振」「宿題の提出」は、教師・児童生徒・保護者の三者でほぼ一致して回答割合が高かった。児童生徒回答では、不登校の児童生徒の47.0%が「授業がわからない」、37.9%が「成績が下がった」、50.0%が「宿題ができない」と回答している。加えて、不登校でない児童生徒についても成績が下がったと感じている児童生徒が多く、授業改善や学習支援の充実は不可欠であろう。

【児童生徒の体調、メンタルヘルス、生活リズムへの注目】 児童生徒回答では、「からだの不調」「気持ちの落ち込み・いらいら」「夜眠れない・朝起きられない」といった体調、メンタルヘルス、生活リズムの不調が、それぞれ不登校の児童生徒の7割前後に見られた。一方、それらが2割未満であった教師回答から考えると、教師には児童生徒の不調を正確に捉えることは難しいかもしれない。よって、デジタル端末の活用など、児童生徒の不調に早期に気づく仕組みが必要である。ただし、デジタル端末等を利用した児童生徒の心や体調の変化に気づく仕組みは、それを活用する教師の知識と支援体制が伴わなければならない。

【背景要因へのアプローチ】 教師回答によると、発達特性、障がい、家庭の困難さなどが不登校と関連することが明らかになった。これらは、合理的配慮、特別支援教育をはじめとする、長期間の継続的支援が必要なものである。こうした要因をもつ児童生徒が多く不登校になっている場合、その学校、地域における特別支援教育の在り方、支援システムの構築、保護者への支援について検討が必要であろう。

## （２）無気力・不安群について

教師回答から、教師が把握可能な要因が明らかでない場合に「無気力・不安」を主たる要因として報告されている可能性が示唆された。

一方で、教師回答による「不安・抑うつ」の訴えや児童生徒回答による「気持ちの落ち込み・いらいら」の割合は「無気力・不安」群とそれ以外の群で変わらず、メンタルヘルスの問題の有無によって分けられている訳ではないことが示唆された。

## （３）相談・指導等を受けていないと報告された不登校の児童生徒の状況

相談・指導等を受けていないと報告された児童生徒は、受けたと報告された児童生徒と比較して、「学業不振」や「宿題の問題」が多くみられた。学業不振等があっても不登校になっている児童生徒の中には、勉強が分かったり、宿題をうまくこなせたりすることで再登校が可能になる場合もあると考えられるため、不登校時の相談・指導は非常に重要であろう。

また、相談・指導等を受けていないと報告された児童生徒は「要対協・要保護」「ひとり親・共働き」といった家庭的な背景要因をもつ割合が高く、相談・指導が届きにくい可能性があり、注意が必要である。

- 小・中・高の不登校が約30万人に急増。90日以上の不登校であるにもかかわらず、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けられていない小・中学生が4.6万人に。
- ⇒不登校により学びにアクセスできない子供たちをゼロにすることを目指し、
  1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える
  2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する
  3. 学校の風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする
- ことにより、誰一人取り残されない学びの保障を社会全体で実現するためのプランを、文部科学大臣の下、とりまとめ。
- 今後、こども政策の司令塔であるこども家庭庁等とも連携しつつ、今すぐできる取組から、直ちに実行。また、文部科学大臣を本部長とする「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」を、こども家庭庁の参画も得ながら、文部科学省に設置。進捗状況を管理しつつ取組を不断に改善。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>主な取組</div> <div><div>1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える</div><div>仮に不登校になったとしても、<u>小・中・高等を通じて、学びたいと思った時に多様な学びにつながる</u>ことができるよう、<u>個々のニーズに応じた受け皿を整備。</u></div><div>○<u>不登校特例校の設置促進</u>（早期に全ての都道府県・指定都市に、将来的には分教室型も含め全国300校設置を目指し、設置事例や支援内容等を全国に提示。「不登校特例校」の名称について、関係者に意見を募り、より子供たちの目線に立ったものへ改称）。</div><div>○<u>校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム等）の設置促進</u>（落ち着いた空間で学習・生活できる環境を学校内に設置）</div><div>○<u>教育支援センターの機能強化</u>（業務委託等を通して、NPOやフリースクール等との連携を強化。オンラインによる広域支援。メタバースの活用について、実践事例を踏まえ研究）</div><div>○<u>高等学校等における柔軟で質の高い学びの保障</u>（不登校の生徒も学びを続けて卒業することができるような学び方を可能に）</div><div>○<u>多様な学びの場、居場所の確保</u>（こども家庭庁とも連携。学校・教育委員会等とNPO・フリースクールの連携強化。夜間中学や、公民館・図書館等も活用。自宅等での学習を成績に反映）</div></div> | <div><div>2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する</div><div><u>不登校になる前に、「チーム学校」による支援を実施するため1人1台端末を活用し、小さなSOSに早期に気付くことができるようにするとともに、不登校の保護者も支援。</u></div><div>○<u>1人1台端末を活用し、心や体調の変化の早期発見を推進</u>（健康観察にICT活用）</div><div>○<u>「チーム学校」による早期支援</u>(教師やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭等が専門性を発揮して連携。こども家庭庁とも連携しつつ、福祉部局と教育委員会の連携を強化)</div><div>○<u>一人で悩みを抱え込まないよう保護者を支援</u>（相談窓口整備。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが保護者を支援）</div></div> <div><div>3. 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする</div><div><u>学校の風土と欠席日数には関連を示すデータあり。学校の風土を「見える化」して、関係者が共通認識を持って取り組めるようにし学校を安心して学べる場所に。</u></div><div>○<u>学校の風土を「見える化」</u>（風土等を把握するためのツールを整理し、全国へ提示）</div><div>○<u>学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」を改善</u>（子供たちの特性に合った柔軟な学びを実現）</div><div>○<u>いじめ等の問題行動に対する毅然とした対応の徹底</u></div><div>○<u>児童生徒が主体的に参画した校則等の見直しの推進</u></div><div>○<u>快適で温かみのある学校環境整備</u></div><div>○<u>学校を、障害や国籍言語等の違いに関わらず、共生社会を学ぶ場に</u></div></div> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|